

シンポジウム5

災害、困窮など、困難な状況を抱えるこども達に対する多職種連携によるこども包括支援～あたたかな見守りの輪へ向けてできること～

座長：田中 和樹（あおぞら共同法律事務所）

西岡 侑子（NPO法人 子育て支援はぐはぐそのまでいいよ）

SY5-5

こどもの貧困、虐待の連鎖をなくす 予防的包括支援のあり方

水島栄美子

NPO法人 子育て支援はぐはぐそのまでいいよ

演者が所属するNPO法人では、行政や他職種と連携して困窮家庭の支援を行なっている。また社会的養護が必要とされる児童養護施設の子どもたち、施設を卒園した若者や若い母親の支援も行なっている。その活動を通して、貧困や虐待などの世代間連鎖が生じていることを実感する。あるケースでは、偶然にも祖母、娘、孫の3世代にわたりそれぞれを支援している。なぜ、世代間連鎖がおきるのか。そして世代間連鎖をなくすためにどうしたら良いのかを考えてみたい

世代間連鎖は親の疾病や貧困など複合的な要因によって生ずると言われる。そして、世代間連鎖を断つには、他職種が連携することで親子を切れ目なく包括的に支援することが最善であると考えられている。支援が行き詰った時には、親子をとりまく関係機関が一同に会し、ケース会議で各機関がもっている情報を共有することで、親子のおかれている状況を正しく理解でき、支援の道筋が立ち目指す支援の方向性が見えてくる。それを受援者と共に共有できると、スムーズに支援が進んでいく場合がある。急性期の厳しい状況の中では、児童相談所の介入や、医師による治療、法律的な救済、生活保護など制度利用の手続きや就労支援などの自立に向けてのソーシャルワークが必要である。急性期を乗り切ったとしても親子を取り巻く状況は刻々と変化するため、再発防止には、また厳しい状況に陥る前の早期の予防的措置を行なうことが重要になる。それにはアウトリーチなどあらゆる支援が連鎖を断ち切るファクターになってくる

しかし、それを行なったとしてもなかなか順調に進んでいかないケースがあることは周知の事実である。親子が前向きに支援を受け入れ、支援者達と共に歩む為には、暖かな支援の輪に包みこまれている感覚を持つことが必要なではないだろうか。なぜならば、子ども時代に安心感のもてない環境に育った場合は、親との愛着が形成されていないことが往々にしてあり得るからである。本シンポジウムでは関わった事例の報告から、他の演者と共に包括的な支援のあり方などを考え、連鎖を断ち切る支援に希望を見いだしていきたい。